



Hinemos クラウド管理オプション

クイックスタートガイド ver1.0

目次

1	はじめに	3
1.1	前提条件	3
1.2	クイックスタートで作るシステム構成	3
1.3	注意事項	4
1.4	免責事項	4
2	AWS側の準備	4
2.1	VPCのセットアップ	4
2.2	セキュリティグループの作成	4
2.3	キーペアの作成	6
2.4	アクセスキーの作成	6
3	Hinemosのセットアップ	6
3.1	Hinemosマネージャインスタンスの作成	6
3.2	HinemosマネージャインスタンスへのEIP付与	7
3.3	クライアントのセットアップ	8
3.4	HinemosマネージャからAWSへのアクセス権限付与	8
4	Hinemosからクラウドの状態を見る	11
5	Hinemosからのクラウド操作	12
5.1	基本的なインスタンス操作	12
5.2	テンプレートを用いた管理対象のセットアップ	15

1 はじめに

本書は **Hinemosクラウド管理オプション クイックスタートガイド** です。Hinemosクラウド管理オプションを利用するまでのセットアップの流れ、および基本的な機能を実際に使用して、Hinemosでクラウド環境を管理する簡単な例を体験することができます。

1.1 前提条件

本クイックスタートガイドでは、Amazon Web Services (以下 AWS) について基本的な知識を有していることを前提としています。AWS 上に Hinemos の環境を構築するにあたって最低限必要な範囲を除き、AWS の操作・用語に関する詳細な説明は記載していません。

また、AWSのアカウントを既に取得済みで、AWS Management Consoleを使用できる環境を持つことを前提とします。

本クイックスタートガイドでは、Hinemosクライアントをオンプレミス環境にインストールします。Windows 7、Windows 2003、Windows 2008 などのオペレーティングシステムがインストールされたマシンを必要とします。

1.2 クイックスタートで作るシステム構成

本クイックスタートガイドでは、次のような環境を構築します。

- Hinemosマネージャ
 - AWS・VPC上に構築
 - Hinemos公式のAMI (HinemosManagerがインストールされたAMI) から構築
 - EIPを付与し、TCP:8080 にてクライアントからの接続を待ち受ける
- Hinemosクライアント
 - オンプレミス環境にインストール
 - HTTP通信でHinemosマネージャと通信
- 管理対象ノード
 - AWS・VPC上に構築
 - Hinemos公式のAMI (HinemosAgentがインストールされたAMI) から構築
 - HTTPサーバを自動構築

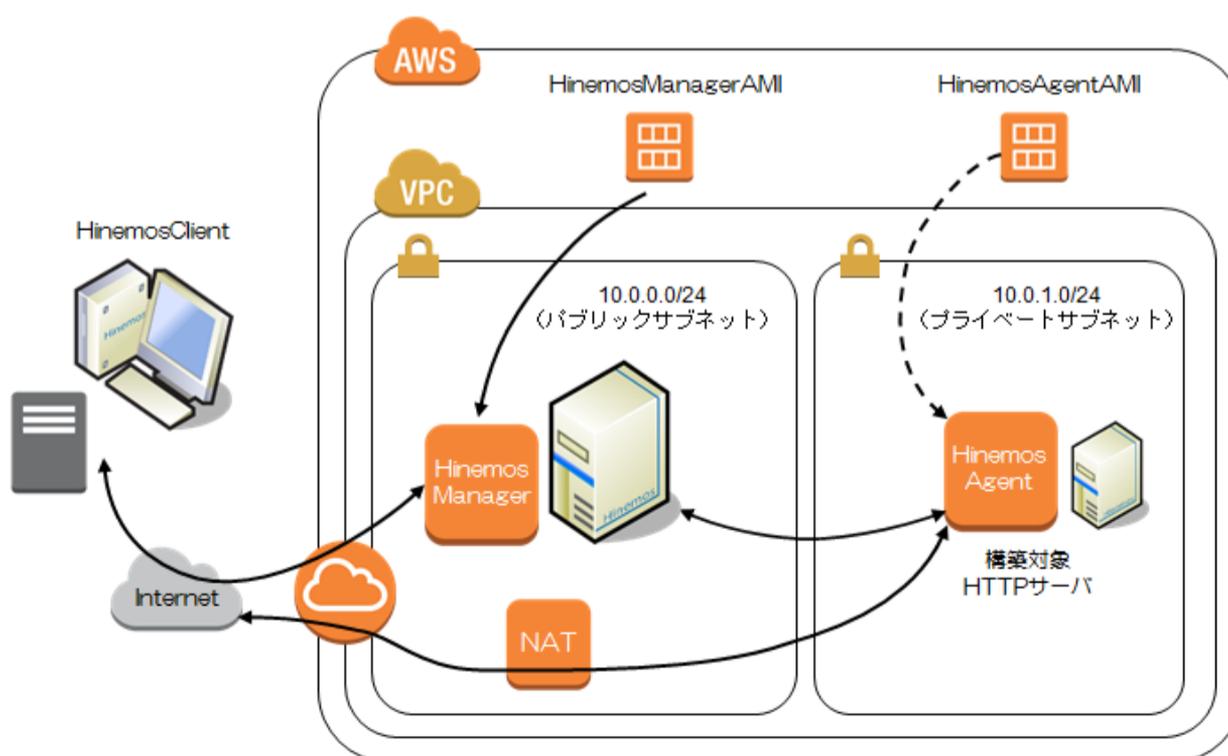


図 1-1 本クイックスタートで構築するシステム構成図

1.3 注意事項

- 本クイックスタートガイドの内容を実施すると、AWSにおいて料金が発生する場合があります。AWSの料金体系等を理解した上で操作を実施してください。
- 本クイックスタートガイドにおいて、2013年5月現在のAWS Management Consoleの操作方法を記載していますが、AWSのサービス変更に伴い、これらの操作が変更となる可能性があります。
- 本クイックスタートガイドで使用するHinemos公式のAMIは、クイックスタートガイドに記載されていない内容を実施する場合、そのままでは動作しない可能性があります。

1.4 免責事項

本ソフトウェアの使用・本ドキュメントに従った操作により生じたいかなる損害に対しても、弊社は一切の責任を負いません。

2 AWS側の準備

本章の操作は、全てAWS Management Consoleから実施します。AWSのアカウントが無い場合、事前に作成してください。

2.1 VPCのセットアップ

インスタンスを配置するためのネットワークを準備します。HinemosマネージャはIPアドレスが固定であることが望ましいため、プライベートアドレスが事実上固定化されるVPCを利用します。

既存のVPCを使用する場合は、本節は省略してください。

1. AWS Management Consoleのサービス一覧から『VPC』を選択します。
左上のServicesからサービス一覧を表示し、『VPC』を選択します。
2. 利用するリージョンを選択します。
右上のリージョンを選択する箇所から、Hinemos環境を構築するリージョンを選択します。以降の操作はすべて同一のリージョンで実施します。
3. VPC作成ウィザードを立ち上げます。
『VPC Dashboard』に表示されている『Get started creating a VPC』または『Start VPC Wizard』を選択します。既存のVPCの有無で、表示される画面が異なります。また、リージョンによっては最初からVPCが作成されている場合があります。
4. NATを使用したVPCを作成します。
『VPC with Public and Private Subnets』を選択し、『Continue』をクリックします。これにより、パブリックサブネットとプライベートサブネットを含み、プライベートネットワークからはNATによりアクセスできるVPCを作成します。
VPCのネットワークアドレスを変更したい場合は、ここで修正することも可能です。本書ではこのまま（10.0.0.0/16のVPC、10.0.0.0/24のパブリックサブネット、10.0.1.0/24のプライベートサブネット）で作成します。『Create VPC』をクリックします。

以上でVPCが作成されます。本書ではここで作成したVPCを使用します。

2.2 セキュリティグループの作成

ネットワークアクセスのポリシーを作成します。ここで作成するポリシーは、[クイックスタートで作るシステム構成](#)を実現するための最低限のセキュリティとしています。

1. セキュリティグループを作成します。

左のメニューから『Security Groups』を選択し、『Create Security Group』をクリックします。

『Create Security Group』のダイアログに以下の内容を入力します。

- 『Name』
セキュリティグループの名前を入力します。「hinemos-security」とします。
- 『Description』
説明を入力します。名前同様に「hinemos-security」とします。
- 『VPC』
VPCのセットアップ で作成したVPCを選択します。

『Yes, Create』をクリックします。

2. セキュリティ設定を変更します。

作成したセキュリティグループを選択し、画面下部の『Details』タブをクリックします。『Group ID』として表示された「sg-xxxxxxx」をメモします。

続いて『Inbound』タブをクリックし、以下の4種類の許可する通信を設定します。

同一ネットワーク内のTCP通信を許可します。以下の内容を設定し、『Add Rule』をクリックします。

- 『Create a new rule』
『All TCP』を選択します。
- 『Source』
先ほどメモした「sg-xxxxxxx」を入力します。

同一ネットワーク内のUDP通信を許可します。以下の内容を設定し、『Add Rule』をクリックします。

- 『Create a new rule』
『All UDP』を選択します。
- 『Source』
先ほどメモした「sg-xxxxxxx」を入力します。

同一ネットワーク内のICMP通信を許可します。以下の内容を設定し、『Add Rule』をクリックします。

- 『Create a new rule』
『All ICMP』を選択します。
- 『Source』
先ほどメモした「sg-xxxxxxx」を入力します。

HinemosクライアントからHinemosマネージャに対するHTTP通信を許可します。以下の内容を設定し、『Add Rule』をクリックします。

- 『Create a new rule』
『Custom TCP rule』を選択します。
- 『Port range』
「8080」を入力します。
- 『Source』
「0.0.0.0/0」、あるいはHinemosマネージャにアクセスする可能性があるHinemosクライアントのアドレスを入力します。

これら4つのルールを設定したら『Apply Rule Changes』をクリックして、セキュリティポリシーを確定します。

以上でセキュリティグループが作成されました。本書で作成するすべてのインスタンスは、このセキュリティグループに所属させます。

2.3 キーペアの作成

EC2インスタンスの作成・ログインの際に必要なキーペアを作成します。既存のキーペアを利用する場合、本節は省略してください。

1. AWS Management Consoleのサービス一覧から『EC2』を選択します。
左上のServicesからサービス一覧を表示し、『EC2』を選択します。
2. Key Pair を作成します。
左のメニューから『Key Pairs』を選択し、『Create Key Pair』 をクリックします。
『Create Key Pair』のダイアログの、『Key Pair Name』を入力します。「hinemos-keypair」とします。
『Create』をクリックします。

これによりキーペアが作成されます。Management Console にアクセスしているブラウザに対して、秘密鍵のファイル（今回であれば hinemos-keypair.pem）がダウンロードされます。このファイルは再度ダウンロードすることはできないため、注意して管理する必要があります。

2.4 アクセスキーの作成

Hinemosマネージャは、AWSのAPIを使用してAWSにアクセスします。この際、AWSにアクセスするためのキーが必要になります。ここでは新規にキーを作成します。

既存のアクセスキーを使用する場合は、本節は省略してください。

1. AWS Management Consoleのメニューから、『My Account』を選択します。
画面上部のメニューから『My Account』を選択し、アカウント画面を開きます。認証画面が表示された場合、AWSのアカウント名とパスワードを入力します。
2. アカウントメニューから『セキュリティ証明書』を選びます。
3. アクセスキーを作成します
『アクセス証明書』の『アクセスキー』タブを選択し、『新しいアクセスキーを作成する』をクリックします。これにより、アクセスキーIDとシークレットアクセスキーが生成されます。
4. 『アクセスキーID』と『シークレットアクセスキー』を確認します。
作成された『アクセスキーID』と『シークレットアクセスキー』をメモします。これらは後ほどクラウド管理オプションからの操作で使用します。

3 Hinemosのセットアップ

3.1 Hinemosマネージャインスタンスの作成

クラウド管理オプションがセットアップされたHinemosマネージャを、Amazon Machine Image（以下、AMI）として用意しています。本書では、公開されているAMIを利用してHinemosマネージャをセットアップします。

1. AWS Management Console のサービス一覧から『EC2』を選択します。
2. インスタンス起動画面を開きます。
画面左側のメニューから『Instances』を選択し、『Launch Instance』をクリックします。

3. 『Quick Launch Wizard』を選択し、必要な情報を入力します。

『Quick Launch Wizard』を選択し、以下の内容を入力します。

- 『Name Your Instance』
インスタンス名を入力します。「HinemosManager」とします。
- 『Choose a Key Pair』
『Select Existing』を選択し、[キーペアの作成](#) で作成したキーペアを選択します。
- 『Choose a Launch Configuration』
『More Amazon Machine Images』を選択します。

入力ができたら、『Continue』をクリックします。

4. HinemosのAMIを検索します。

『Search』ボタンの左にあるテキストボックスに探すAMI名を入力します。「AMI_HINEMOS」と入力し、『Search』をクリックします。

いくつかのHinemosのAMIが検索結果として出ます。公式のHinemosAMIを確認するには、各AMIの右側にある『+more info』をクリックしてAMIの詳細を表示します。『Owner Id』が「879268495141」となっていれば、公式のHinemosAMIとなります。

「AMI_HinemosManager402_x64_Amzn201303」を選択し、『Continue』をクリックします。

5. インスタンスの詳細を設定します。

『Edit details』をクリックし、詳細設定の画面を開きます。以下の各内容について設定を行います。

- 『Instance Details』
 - 『Type』
インスタンスのタイプを選択します。Hinemosマネージャはmicroインスタンスでは動作しません。small以上のインスタンスを選択してください。
 - 『Launch into a VPC』
VPCを利用するため、チェックします。チェックすると『Subnet:Launch info:』の項目が出現します。[VPCのセットアップ](#) で作成したサブネットのうち、パブリックのサブネットを選択します。
- 『Security Settings』
『Select Existing Security Groups』を選択し、[セキュリティグループの作成](#) で作成したセキュリティグループ (hinemos-security) を選択します。

これらを設定したら『Save details』をクリックします。

6. インスタンスを起動します。

『Launch』をクリックします。

以上で、HinemosマネージャのEC2インスタンスが起動します。

3.2 HinemosマネージャインスタンスへのEIP付与

AWS上のHinemosマネージャに対してローカルPCからアクセスするため、HinemosマネージャにはグローバルIPを割り当てる必要があります。AWSの **Elastic IP** (以下、EIP) を利用します。

1. EIPの作成ダイアログを開きます。

画面左側のメニューから『Elastic IPs』を選択し、『Allocate new Address』をクリックします。

2. VPC用のEIPを作成します

『EIP used in:』で、「VPC」を選択し、『Yes, Allocate』をクリックします。Hinemosクライアントから接続する際には、ここで作成されたEIPのアドレスに接続します。

3. 作成したEIPをHinemosマネージャインスタンスに割り当てます

新規に生成されたEIPを右クリックし、『Associate』を選択します。

『Instance』でマネージャのインスタンスを選択^(※)し、『Yes, Associate』をクリックします。

以上で、HinemosマネージャにEIPが設定されました。

(※) 停止状態のインスタンスは起動できません。

3.3 クライアントのセットアップ

本書では、HinemosクライアントをAWS上ではなくローカルのWindows環境に準備します。

1. Hinemosクライアントをインストールします。

Hinemosクライアントを、手元のWindows環境にインストールします。インストール方法については、Hinemosインストールマニュアルを参照ください。

『Hinemos ver4.0 インストールマニュアル 第1.2版 7.1 Hinemosクライアントのインストール、7.2 Hinemosクライアントの起動』

2. クラウド管理オプションのクライアントライブラリをインストールします。

クラウド管理オプションのクライアントライブラリのZIPファイル (com.clustercontrol.cloud_1.0.x.zip) を展開し、Installer_JP.bat または Installer_EN.bat をダブルクリックします。クラウド機能拡張のダイアログが表示されるので、インストール対象となる Hinemosのバージョンを入力し、OKボタンをクリックします。

3. 必要に応じてProxyの設定を行います。

Proxyを経由したアクセスが必要な環境の場合、HinemosクライアントからProxyを使用してHinemosマネージャへ接続するように設定する必要があります。

Proxyの設定方法については、管理者ガイドを参照してください。

『Hinemos ver4.0 管理者ガイド 第1.2版 11.1.1 HinemosクライアントからHinemosマネージャへの接続』

3.4 HinemosマネージャからAWSへのアクセス権限付与

HinemosマネージャからAWSのサービスを利用するため、[アクセスキーの作成](#) で取得したアクセスキーIDとシークレットアクセスキーを、Hinemosマネージャに登録します。

1. HinemosクライアントからAWS上のHinemosマネージャにログインします

[HinemosマネージャインスタンスへのEIP付与](#) で作成・付与したIPアドレスに対して Hinemosクライアントからログインします。

2. クラウド管理パースペクティブを開きます

メニューから「パースペクティブ」→「パースペクティブ表示」を選択して「パースペクティブを開く」ダイアログを開きます。

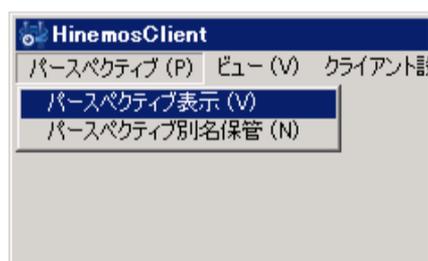


図 3-1 メニューから選択

「クラウド管理」パースペクティブを開きます

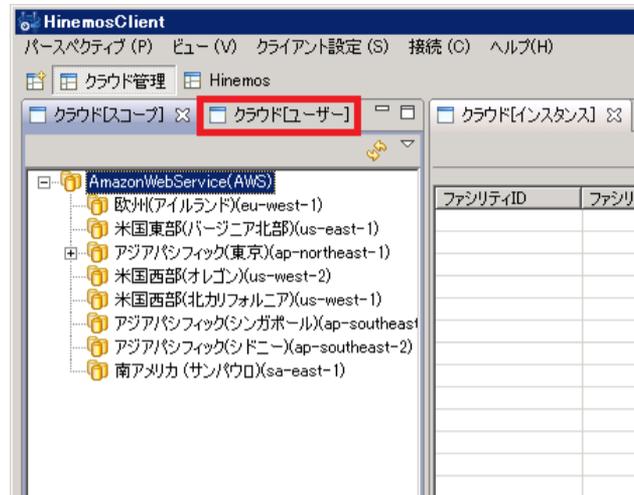


図 3-4 クラウド[ユーザー]ビューを開く

「登録」をクリックします。

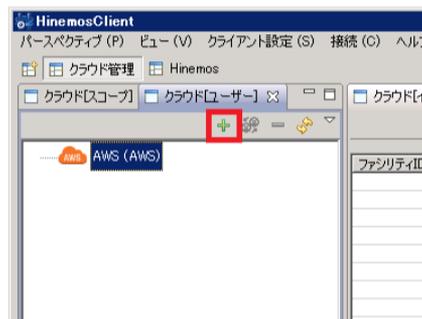


図 3-5 クラウド[ユーザー]の「登録」ボタン

4. クラウド[アカウント登録・変更]ダイアログで、アカウントを登録します。(※)

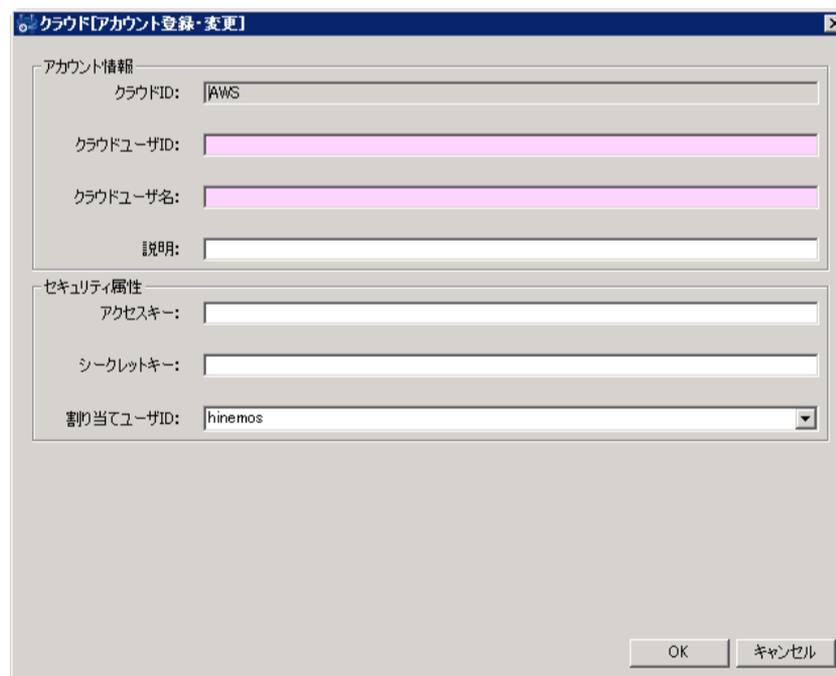


図 3-6 クラウド[アカウント登録・変更] ダイアログ

クラウド[アカウント登録・変更] ダイアログが表示されたら、以下の内容を入力します。

- ・ クラウドユーザID
Hinemosが管理するクラウドユーザのIDを指定します。これは、AWS上のユーザIDとは無関係です。識別できる任意の名前を設定可能です。「MainAccountUser」とします。
- ・ クラウドユーザ名
「メインアカウント」とします。
- ・ アクセスキー
アクセスキーの作成 で取得したアクセスキーIDを入力します。
- ・ シークレットキー
アクセスキーの作成 で取得したシークレットアクセスキーを入力します。

その他の項目はデフォルト値のまま、「OK」をクリックします。さらに確認画面が表示されるので、「OK」をクリックします。

以上で、HinemosからAWSを操作・監視する準備が整いました。

(※) 本書で作成する環境においては、アカウント登録の際に入力したアクセスキーID・シークレットアクセスキーは、HinemosクライアントからHinemosマネージャに対し、ネットワーク上を平文で送信されます。セキュリティを確保するためには、クライアント・マネージャ間の通信をHTTPSやVPN等を使用して暗号化することが推奨されます。Hinemosマネージャ・クライアント間の通信のHTTPS化については、管理者ガイドを参照してください。

4 Hinemosからクラウドの状態を見る

クラウド管理オプションを導入したHinemosマネージャは、常にクラウドの状態を監視し、その内容をHinemosの管理対象として反映します。(※)

(※) 設定により、自動的に監視・反映をするか否かを変更可能です。詳細はマニュアルを参照してください。

1. クラウド管理パースペクティブで状態を確認します。

クラウド管理パースペクティブを開き、クラウド[スコープ]ビューで、Hinemosマネージャを作成したリージョンを選択します。リージョンを選択すると、クラウド[インスタンス]ビューには、そのリージョンに存在するインスタンスの状態が表示されます。

2. AWS Management Consoleから任意のインスタンスを作成します。

AWS Management Consoleを使って、クラウド上に任意のインスタンスを作成します。作成後しばらく経つと、クラウド[インスタンス]ビューには、作成したインスタンスが表示されます。

3. リポジトリパースペクティブでHinemosの管理対象として登録されていることを確認します。

リポジトリパースペクティブを開きます。リポジトリ[ノード]ビューには、AWS上に存在しているHinemosマネージャ自身や、AWS Management Consoleから作成したインスタンスなどが登録されています。

また、リポジトリ[スコープ]ビューにはAWSに関するスコープが存在し、その中にリージョン別にスコープが定義されています。

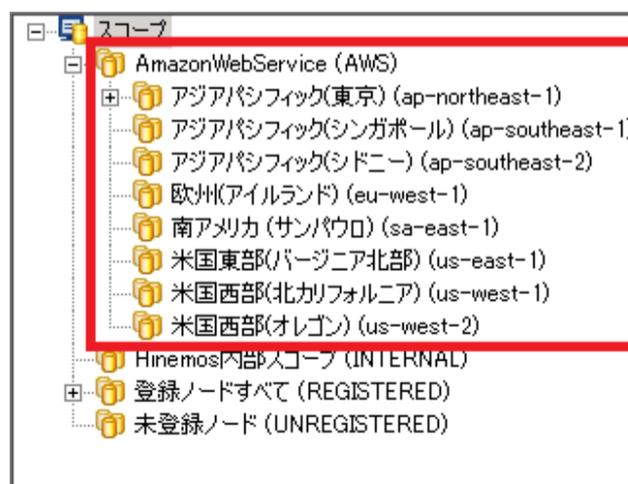


図 4-1 リージョン別のスコープ

5 Hinemosからのクラウド操作

クラウド管理オプションを導入したHinemosからは、クラウド環境を操作することができます。クラウド環境が提供している基本的な機能に加え、Hinemosの独自機能による、より高度な操作を行うことが可能です。

5.1 基本的なインスタンス操作

クラウド[インスタンス]ビュー上のツールバーを利用して、Hinemosからクラウド上のインスタンスを操作することができます。

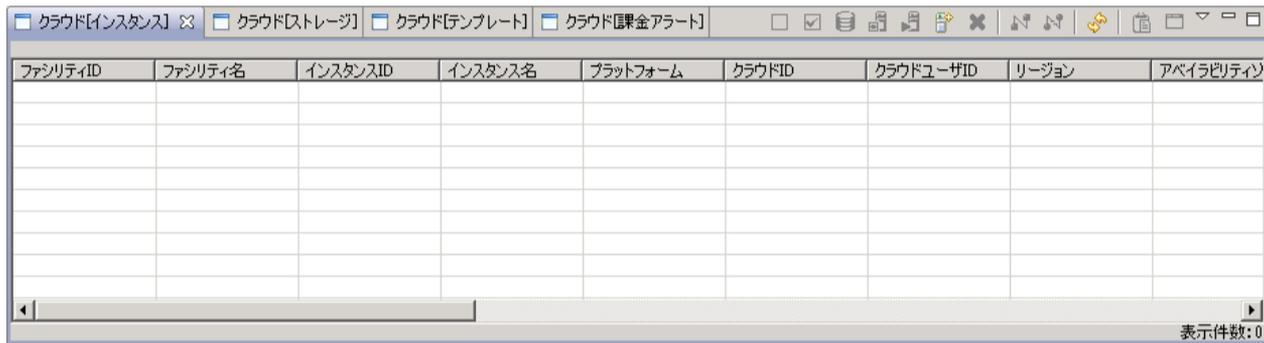


図 5-1 クラウド[インスタンス]ビューとインスタンス操作のボタン群

以下、基本的なインスタンスの操作（作成・起動停止・削除）を実施します。

1. Hinemosからクラウドインスタンスを作成します

クラウド管理パースペクティブからクラウド[インスタンス]ビューを選択し、作成をクリックすると、クラウド[インスタンス作成]ダイアログが表示されます。



図 5-2 作成ボタン



図 5-3 クラウド[インスタンス作成]ダイアログ

表示されたクラウド[インスタンス作成]ダイアログに以下の内容を入力します

- ファシリティID
「ec2-1」と入力します。
- ファシリティ名
「EC2インスタンス1」と入力します。
- ノード名
「-」と入力します。
- リージョン、アベイラビリティゾーン
インスタンスを配置したいリージョン、アベイラビリティゾーンを選択します。
- キーペア
[キーペアの作成](#) で作成したキーペアを選択します。

続いて、「参照」ボタンをクリックして、クラウド[AMI選択]ビューを表示し、ベースとするAMIを選択します。



図 5-4 AMI参照ボタン

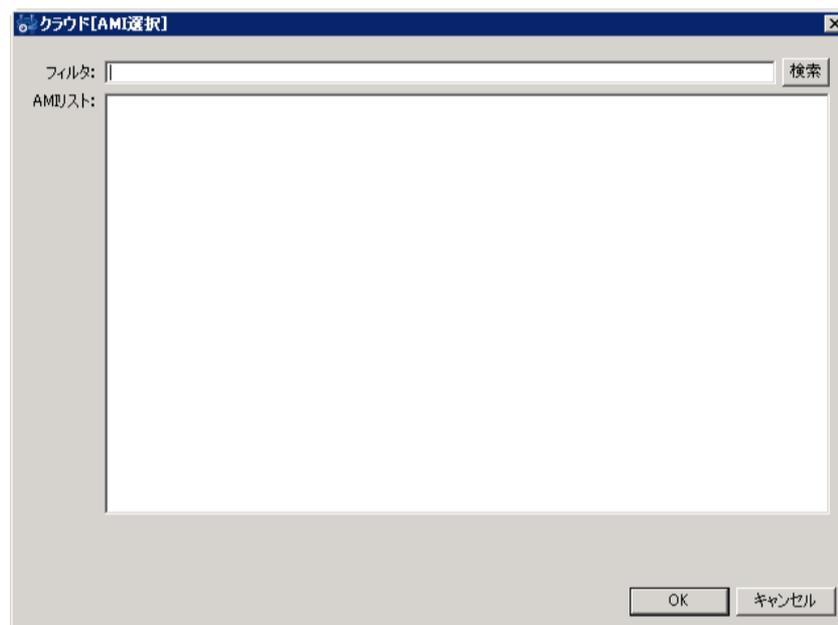


図 5-5 クラウド[AMI選択]ダイアログ

このダイアログでは、フィルタに入力した文字列を基に、AWS上で利用可能なAMI名を 中間一致で検索します。例えば、AmazonLinuxをベースとしてインスタンスを起動する場合、フィルタに「amzn-ami」と入力して検索をクリックします。

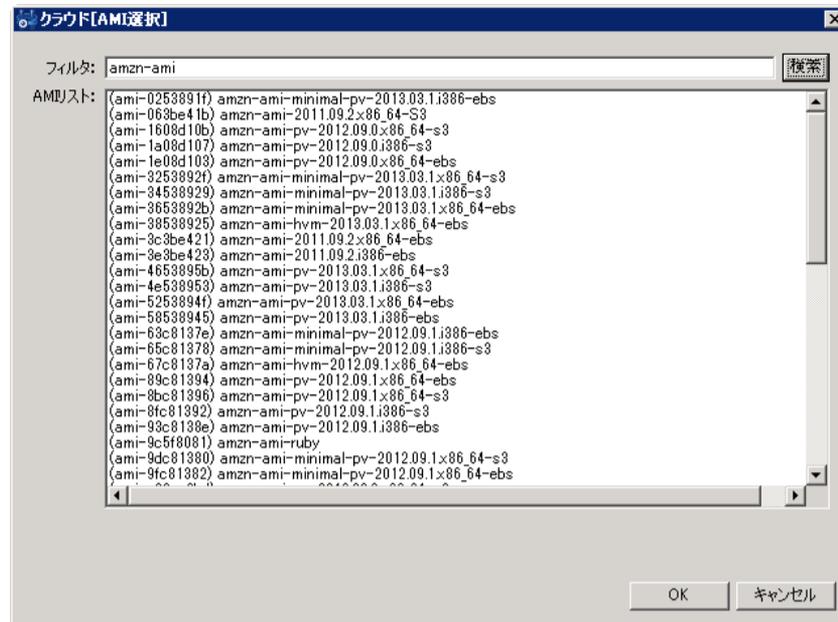


図 5-6 AMI検索結果の例

表示されたAMI名から、ベースとしたいAMIを選択してOKをクリックします。

その他、インスタンスタイプやセキュリティ設定などは、必要に応じて 詳細設定ボタンをクリックして、詳細設定ダイアログで設定します。

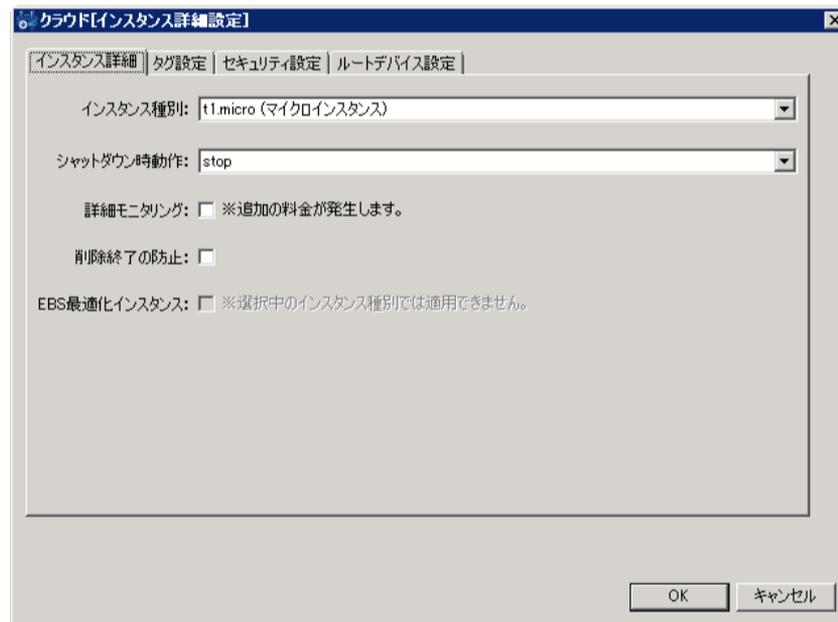


図 5-7 詳細設定ダイアログ

インスタンス設定ができれば、OKボタンをクリックしてインスタンスを作成します。クラウド[スコープ]ビューで作成先のリージョンを選択すると、作成したインスタンスがクラウド[インスタンス]ビューに登録されていることが確認できます。また、AWS Management Consoleからも作成されたことが確認できます。

2. インスタンスを操作します

操作したいインスタンスが存在するリージョン（アベイラビリティゾーン）を、クラウド[スコープ]ビューで選択します。選択したリージョン（アベイラビリティゾーン）に存在するインスタンスが、クラウド[インスタンス]ビューに表示されます。

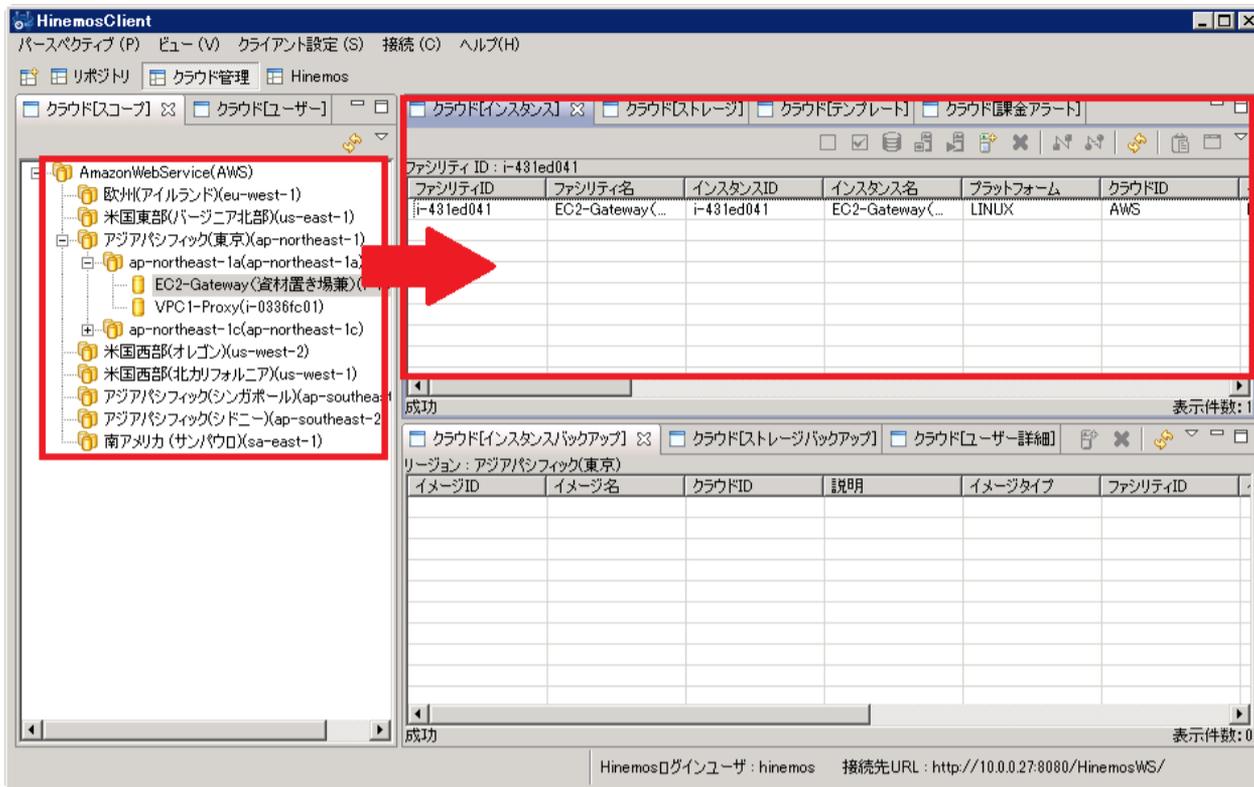


図 5-8 クラウド[スコープ]ビューとクラウド[インスタンス]ビューの関係

操作したいインスタンスをクラウド[インスタンス]ビューで選択し、操作のボタンをクリックすることで、各種操作が行えます。

5.2 テンプレートを用いた管理対象のセットアップ

クラウド管理オプションのテンプレート機能は、インスタンスの作成・起動・停止時に、対象インスタンスにおいて任意のスクリプトやコマンドを実行できる機能です。

通常Hinemosのジョブ管理機能で実行するスクリプトは、管理対象側に用意する必要がありますが、テンプレート機能では、マネージャに用意したスクリプトを実行することができます。そのため、起動するAMI側にスクリプトなどを用意する必要がなく、インスタンス作成直後から任意のジョブを実行し、柔軟・高度な環境構築ができます。インスタンス作成後、即座に利用可能な環境をセットアップすることも可能です。

ここでは例として、テンプレートからインスタンスを作成し、インスタンス作成と同時にHTTPサーバを構築します。

1. テンプレートジョブの作成

テンプレート機能で使用するようになるコマンドやスクリプトなどを、Hinemosのジョブとして登録します。

クラウド管理パースペクティブのクラウド[テンプレート]ビューを開きます。

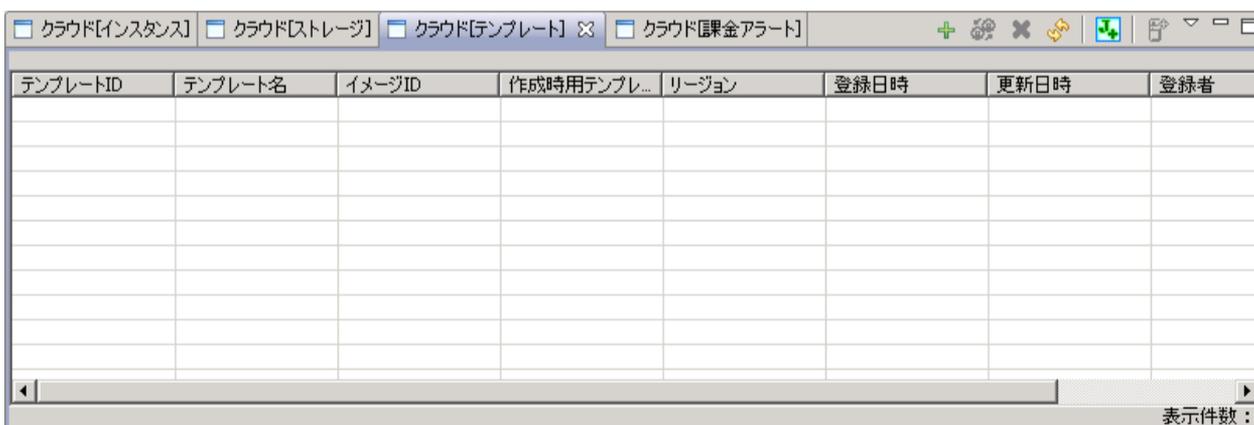


図 5-9 クラウド[テンプレート]ビュー

『テンプレートジョブ作成』をクリックし、クラウド[テンプレートジョブ作成] ダイアログを表示します。



図 5-10 テンプレートジョブ作成 ボタン

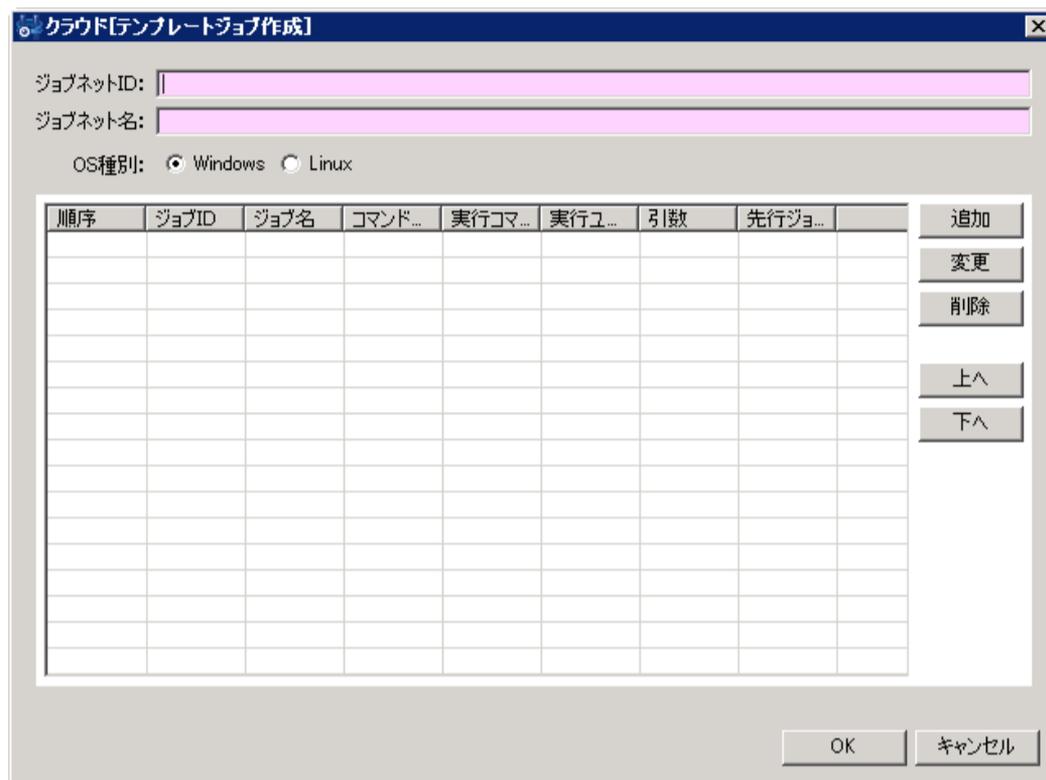


図 5-11 クラウド[テンプレートジョブ作成] ダイアログ

クラウド[テンプレートジョブ作成] ダイアログでは、以下の内容を入力します。

- ジョブネットID
「httpd-setup-jobnet」とします。
- ジョブネット名
「HTTPDセットアップジョブネット」とします。
- OS種別
Linux を選択します。

次に、「追加」ボタンをクリックして、コマンド/共通スクリプト[登録・変更] ダイアログを表示します。

図 5-12 コマンド/共通スクリプト[登録・変更] ダイアログ

コマンド/共通スクリプト[登録・変更] ダイアログでは、以下の内容を入力します。

- ジョブID
「httpd-setup-job」とします。
- ジョブ名
「HTTPDセットアップジョブ」とします。
- コマンド / 共通スクリプト（選択）
「共通スクリプト」を選択します。
- 共通スクリプト
「httpd_setup.sh」を選択します。
- 実行ユーザ
「root」とします。
- 成功とする戻り値の範囲
「0」 - 「0」とします

以上を入力したら、「OK」をクリックします。クラウド[テンプレートジョブ作成] ダイアログで「OK」をクリックします。

以上でテンプレートジョブが作成されました。

2. テンプレートの登録

登録したテンプレートジョブとAMIを組み合わせ、テンプレートとして登録します。

クラウド[テンプレート] ビューで「登録」ボタンをクリックし、クラウド[テンプレート作成・変更] ダイアログを表示します。



図 5-13 テンプレート登録ボタン

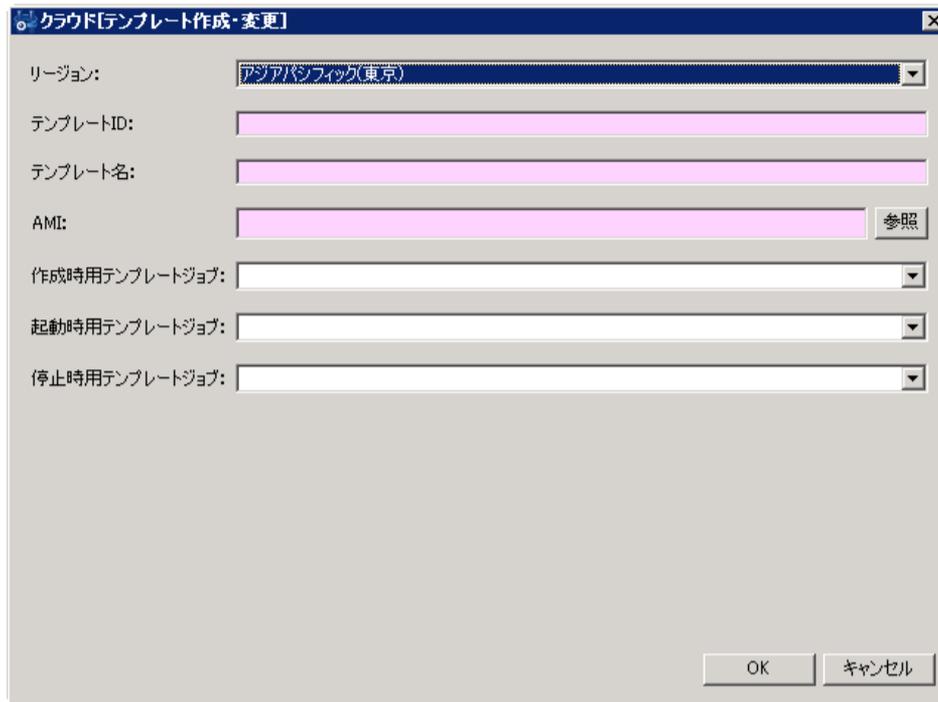


図 5-14 クラウド[テンプレート作成・変更] ダイアログ

クラウド[テンプレート作成・変更] ダイアログでは以下の内容を入力します。

- リージョン
Hinemosマネージャインスタンスの作成 で、Hinemosマネージャを配置したリージョンを選択します。
- テンプレートID
「HTTPD_template」とします。
- テンプレート名
「HTTPD構築テンプレート」とします。
- AMI
「参照」をクリックし、クラウド[AMI選択]ダイアログでAMIを検索します。フィルタとして「AMI_HinemosAgent」と入力し、「検索」をクリックします。「AMI_HinemosAgent402_x64_Amzn201303」を選択し、「OK」をクリックします。
- 作成時テンプレートジョブ
「HTTPDセットアップジョブ (httpd-setup)」を選択します。

「OK」ボタンをクリックして、テンプレートを登録します。

3. テンプレートによるインスタンスの作成

登録したテンプレートを使用して、インスタンスを作成します。

クラウド[テンプレート]ビューに表示されたテンプレートを選択し、「インスタンス作成」ボタンをクリックすると、クラウド[インスタンス作成]ダイアログが表示されます。

[基本的なインスタンス操作](#)の中でインスタンスを生成した際と同様のダイアログが表示されますが、「テンプレートを使用」がチェックされている点と、テンプレートとして「HTTPD構築テンプレート (HTTPD_template)」が選択されている点が異なります。

それ以外の項目は以下の通り入力します。

- ファシリティID
「ec2-httpd」と入力します。
- ファシリティ名
「EC2-HTTPサーバインスタンス」と入力します。
- ノード名
「-」と入力します。
- リージョン
Hinemosマネージャを配置したリージョンを選択します。(※1)
- VPC内から起動
[VPCのセットアップ](#)で作成したVPCを選択します。(※1)
- サブネット
[VPCのセットアップ](#)で作成したVPC内の **プライベートサブネット** を選択します。(※2)
- キーペア
[キーペアの作成](#)で作成したキーペアを選択します。

これら以外の項目は標準のままとし、「OK」をクリックします。

クラウド[インスタンス作成]ダイアログで「OK」をクリックすると、テンプレートからインスタンスが作成されます。

以上でインスタンスが作成され、直後にHTTPサーバの設定が施されます。SSH等でログインをすることで、httpdプロセスが起動していることを確認可能です。あるいは、Hinemosから [http://\[作成したインスタンスのIP\]/](http://[作成したインスタンスのIP]/) に対してHTTP監視等を行うことでもHTTPアクセスが可能なことを確認できます。

(※1) テンプレート機能はジョブ管理機能を利用しており、ジョブ管理機能を利用するためには、HinemosエージェントとHinemosマネージャが直接通信できる必要があります。ここでは簡単のために、テンプレートから作成するインスタンスをHinemosマネージャと同一ネットワークに配置しています。テンプレート機能を利用する際に、マネージャと異なるネットワークにインスタンスを配置する場合には、それらのネットワーク間で通信ができるようにする必要があります。

(※2) yumコマンドによるパッケージのインストールを行うため、外部に対して通信ができる必要があります。インスタンスをパブリックサブネット側におく場合、EIPを付与する必要があるため、ここではNAT経由のプライベートサブネット側にインスタンスを配置しています。

Hinemos クラウド管理オプション ver1.0.0 クイックスタートガイド

非売品

- 禁無断複製
- 禁無断転載
- 禁無断再配布

Hinemosは（株）NTTデータの登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

なお、本文中にはTM、Rマークは表記しておりません。